人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	学校全体として人権尊重の視点に立った学校づくりが組織的かつ効果的に進められている実践事例

１．基本情報

○都道府県名及び市町村名

北海道富良野市

○学校名

富良野市立富良野西中学校

○学校のＵＲＬ

http://www.city.furano.hokkaido.jp/furanonishityu/

２．学校紹介

○学級数

【通常の学級】全学年各３学級　【特別支援学級】３学級　【合計】１２学級

○児童生徒数

【全生徒数】２５６人（平成２４年１１月１日現在）
（内訳：１年７３人、２年８５人、３年９２人、特別支援学級６人）

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】
「明日を築くたくましい生徒～高い知性　豊かな心　健やかな体」
【人権教育に関する目標】
「豊かな心の教育を推進する中で、人権尊重の意義・内容等を理解する。」
【標語】
「ＺＥＲＯ運動　～一日一善～　笑顔あふれる学校に」

○人権教育にかかる取組の全体概要

①　学校の教育活動全体を通じた人権教育の推進
　ア．人権尊重の精神に立つ学校づくり
　イ．人権教育の充実を目指した教育課程の編成
　ウ．人権尊重の理念に立った生徒指導
　エ．人権尊重の視点に立った学級経営等
　オ．校内の推進体制の確立と充実
②　家庭、地域との連携
③　関係諸機関との連携、協力
④　人権教育の全体計画の作成
⑤　人権教育の年間計画の作成

３．特色ある実践事例の内容

(1) 人権教育に係る指導の概要

① 基本方針

ア．人権教育の中核に、いじめゼロに向けた「ＺＥＲＯ運動」を位置付け、生徒指導部が中心となり、関係機関と連携を図りながら、全ての子どもに「人権感覚」、「人権に関する知的理解」、「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」を身に付けさせることを目指す。

イ．生徒会が主体となり、生徒同士が互いに尊敬や敬愛の念をもち、明るく過ごしやすい学校生活を送るため、いじめゼロを目指す。

② 組織・校内推進体制

校務分掌に「人権教育研究部」を新設し、児童生徒支援加配教員を「人権教育担当者」に指名し、人権教育の活動に係る企画・立案、各校務分掌組織間の連絡調整・統括、対外的なコーディネートの役割を担い、組織的かつ機動的な体制づくりを行っている。

③ 全体計画

④　年間計画

時期	事　業　内　容　等	備　　考
４月	・第１回人権教育研究部会 　年間推進計画の全体確認 　教育課程編成上のポイントの共通理解 　生徒会活動計画の確認 ・「ＺＥＲＯ運動」の紹介 　（新入生オリエンテーション）	**人権教育研究部が中心となって企画運営する。** 職員会議 校内研修
５月 ６月	・各学年、各教科での実践開始（１学期） ・いじめアンケート、教育相談 ・各関係機関との連携	関係機関との連絡調整
７月	・生徒アンケート集約 ・第２回人権教育研究部会 　１学期の点検・評価	校内研修
８月	・２学期の実践開始 ・専門家を招聘した教員研修 ・人権作文への応募	校内研修 関係機関との連絡調整
９月	・生徒会主催による全校集会 ・各学年行事、各教科等での外部講師による授業	関係機関との連絡調整
１０月	・校内研修における研究授業 ・中間点検と評価 　生徒アンケート、教育相談	校内研修
１１月	・いじめアンケート ・人権講演会	関係機関との連絡調整
１２月	・第３回人権教育研究部会 　２学期の点検・評価 　教育課程編成完了・校正 　保護者アンケート、生徒アンケート	校内研修
１月	・３学期の実践開始 ・学校教育計画の評価 　保護者アンケート・生徒アンケート集約・評価	
２月 ３月	・年度末の点検・評価 ・第４回人権教育研究部会 　人権教育実践のまとめ	校内研修 成果と課題のまとめ

(2) 生徒が主体的に取り組む「ＺＥＲＯ運動」

① 取組のねらい

・全ての生徒が過ごしやすく、生き生きと活動できる学校生活を自分たちの手で創り上げる。

・いじめは絶対に許されない行為だということを理解し、よりよい学校にするために、一人一人が主体的に行動を起こす。

・生徒会活動を活性化させ、生徒自らが、よりよい学校を築き上げる意識を高め、学校や学級への所属感をはぐくむ。

② 取組を始めたきっかけ

開校６０周年に合わせ、生徒会が今よりもよりよい学校づくりを目指し、テーマを「一日一善～笑顔あふれる学校へ～」として、生徒自らが働きかけ「ＺＥＲＯ運動」を展開していくことを提案し、学校全体で取り組むこととした。

③ 缶バッチに込められた願い

○バッチの種類（５色１０種類）

生徒一人一人の個性を尊重し、「ＺＥＲＯ運動」に向けて意識を高めるために、自分の好きな色や大きさのバッチを選べるようにしている。

○模様の意味

２羽の鳥が大きく羽ばたくイメージをデザイン化し、互いに思いやりをもって助け合い、明るく学校生活を送ることを表現している。

○ロゴ（ＺＥＲＯ）について

「ＺＥＲＯ運動」のＺＥＲＯをロゴ化し、学校生活を送る上で、いじめ、遅刻、かぜひき等がＺＥＲＯになる願いを表現している。

④ 取組の内容

○「ＺＥＲＯ運動」生徒による決意表明

ア．生徒が主体的に決意表明カードを書き、廊下に掲示する。よりよい人間関係や学校を築いていくために、「自分はこうする」という強い意志をもって決意表明を行う。

イ．生徒会の役員に決意表明カードを提出後、生徒は好きな缶バッチをもらう。

ウ．生徒は、制服の胸ポケットやカバンなどに缶バッチを付け「ＺＥＲＯ運動」を行っていることを表明する。

エ．生徒は、一日一回は、周りの人のために自分の力を発揮し、相手を思いやる気持ちをもつことにより、よりよい学校にしていくよう心がけて生活する。

○生徒会による「いじめＺＥＲＯ運動」

いじめは絶対に許されない行為だということを生徒自身が理解し、よりよい学校にするために、生徒会を主体に生徒一人一人が行動を起こす取組。

ア．決意表明カード、缶バッチの取組

イ．全校集会を活用した、いじめ根絶に向けたメッセージの発信

ウ．人権作文コンクール、いじめ根絶標語コンクール等への積極的な参加

エ．ＺＥＲＯ運動の取組の趣旨を伝えるポスターの作成

○生活常任委員会による「ポイ捨てＺＥＲＯ運動」

生活常任委員会が主体となってポスターを作成したり、帰りの会等で呼びかけを行ったりするなど、ごみのポイ捨てＺＥＲＯを目指す取組。

○保体常任委員会による「かぜひきＺＥＲＯ運動」

保体常任委員会が主体となって、かぜやインフルエンザ等にかかることなく健康に学校生活を送るために必要な対策等を推進する取組。

○文化常任委員会「読書嫌いＺＥＲＯ運動」

文化常任委員会が主体となって図書委員が推薦する人権に関わる本をポスターや昼の放送等を活用して推奨し、充実した朝読書になることを目的とした取組。

○代表委員会「人権意識の醸成を目指した学級目標の設定」

代表委員会が主体となって学級目標を設定する際、生徒一人一人が考える「大切にすべき行動、態度、言葉」と「マイナスになる行動、態度、言葉」をカードに記入、掲示し、一人一人の思いや考え方を明確にし、よりよい学級にするための方策を考える取組。

⑤　取組の主体や実施体制

生徒会、各委員会、教職員

⑥　取組の頻度～通年（年間の生徒会活動の計画等に沿って実施）

⑦　生徒の変容及び今後の課題

○生徒の変容

自分で考え周囲と協力しながら「ＺＥＲＯ運動」に取り組むことにより、主体的に思いやりをもって生活したり、広い心で互いのよさを認め合ったりする様子が見られるようになってきている。

○今後の課題

今後、生徒の自己肯定感を育てるとともに、多様な生活の在り方や様々な価値観をもって生きる他者の存在を受容できるよう、一層の指導の充実に努める必要がある。

４．実践事例の実績、実施による効果

(1) 取組の実績

① 「どさんこ☆子ども全道サミット」への参加

北海道教育委員会主催の事業である本サミットに参加し、全道各地から参加した子どもたちと、いじめのない明るい学校づくりに向けた取組について交流した。その中で、本校が取り組んでいる、よりよい人間関係づくりを実現するための「ＺＥＲＯ運動」を全道に発信した。

② 「富良野市子ども未来づくりフォーラム」への参加

富良野市教育委員会主催の本フォーラムにおいて、「ＺＥＲＯ運動」を通して学んだ成果を富良野市全体に発表するとともに、地域全体の取組となるよう他校へ「ＺＥＲＯ運動」の参加を求めた。

(2) 取組が効果を上げた実際の事例

活動の主体が生徒会、各委員会から、部活動に広がりはじめ、生徒一人一人に他者を尊重する思いや協力の意識が高まるなど、学校生活全体を通した取組へと広がりがみられた。

① 野球部 「ごみＺＥＲＯ運動」

地域、校内の環境美化の一環として、登校時における地域のゴミ拾い、早朝の学校美化の活動を行った。

② テニス部「元気のないあいさつＺＥＲＯ運動」

毎朝、早めに登校し、玄関に入る生徒と元気にあいさつをし、さわやかな一日のスタートを切ることを目的として取り組んだ。

③ ＰＴＡ「グラウンド石ころＺＥＲＯ運動」

ＰＴＡと生徒が共に、グラウンドを安全に使いやすくするため、石を取り除く作業を行った。

④ 社会福祉協議会「独居老人宅積雪ＺＥＲＯ運動」

社会福祉協議会の職員と生徒が共に、冬場、独居老人宅を訪問し屋根の雪下ろし、作業を行う活動を行った。

(3) 取組の実施から得られた知見・経験により改善を図った事項

人権教育によって育てたい資質能力を子どもたちに身に付けさせるため、指導方法の工夫改善を図った。

① 『協力的な学習』：学級集団の全員にとって有意義な学習となるよう、協力しつつ共同で学習を進める取組を各教科に取り入れている。

② 『参加的な学習』：学習課題の設定やコース選択が可能な学習において、生徒が主体的に学習に取り組む学習過程の構築に努めている。

③ 『体験的な学習』：人権教育や人権啓発において生徒が参加できる体験型の学習を取り入れるなど、人権感覚の育成のために体験的な学習を行っている。

５．実践事例についての評価

(1)取組についての点検・評価方法

①教職員による点検・評価

教職員によるアンケート等を行い、その結果を分析し次の活動へ役立てる。

②生徒による評価

学校の取組に対する生徒のアンケート等を行い、その調査結果を学校としての評価に反映させる。さらに、そのアンケートにより人権教育に対する意欲・関心、達成感の状況を把握する。

③保護者による評価

保護者アンケート等の結果をもとに学校関係者評価委員の意見を求めたり、ＰＴＡ役員会において意見交換を行ったりする。このほか、授業参観日など、学校・学年・学級における取組を公開し、活動状況の説明を行うとともに、保護者等の意見や感想を聞く機会を設定する。

(2)取組についての評価とその理由

【評価】

① 生徒の自己指導能力の育成

社会の一員として自己実現できるような資質・能力・態度がはぐくまれ、人間尊重の精神をもって主体的に行動する姿がみられるようになった。

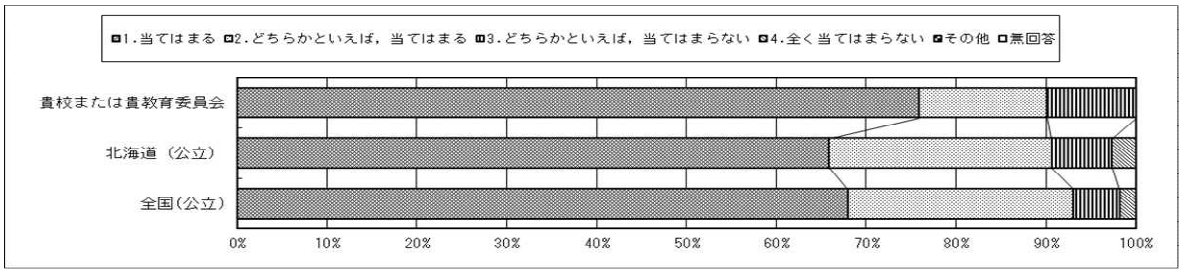
②人権尊重の理念の理解と体得

「自分の大切さとともに、他の人の大切さ」を認め合い、行動することができるようになった。

【理由】

本校の生徒は、人権教育に係る諸活動に取り組んでいることに誇りをもつとともに、いじめ根絶に向けた活動に積極的に取り組んでいる。このことにより、平成２４年度全国学力・学習状況調査、質問番号（３６）「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の問いに対して、「全く当てはまらない」と回答した生徒が０％であったことから、生徒間でいじめはどんなことがあっても許されないという気持ちが着実にはぐくまれてきている。

質問事項	いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか



(3) 保護者や地域住民からの反応

「ＺＥＲＯ運動」の取組を学校だよりやホームページ、授業参観日等で保護者や地域に普及している。

その結果、教育委員会（北海道教育委員会、北海道教育庁上川教育局、富良野市教育委員会等)、ＰＴＡ、地域の方から本校生徒への応援メッセージとして、生徒の取組に賛同する決意表明カードを書いてくれる方が増えるなど、地域や保護者と一体感のある取組として評価されている。

(4) 実施にあたっての課題

・生徒の自主的な「ＺＥＲＯ運動」の取組を中核にした組織的な人権教育の推進により、「人権感覚」、「人権に関する知的理解」、「自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意識・意欲・態度」をはぐくむため、生徒の主体的な活動をより一層推進するとともに、地域、保護者、関係機関との連携をさらに深める必要がある。

・生徒がより自己存在感をもてるよう、生徒一人一人に応じた指導を工夫することにより、各教科等における人権教育の一層の充実を図る必要がある。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

富良野市立富良野西中学校
学校全体をあげて人権教育の推進に取り組み、その中心にいじめゼロを目指した「ＺＥＲＯ運動」を位置づけている点が本事例の特徴である。すべての生徒が＜人権感覚＞を身に付けることを重視し、その知的理解を図る指導を積み重ねつつ、自他の人権を守る意識・意欲・態度の育成を具体化している。生徒個々の自己理解と他とのかかわりによる人間関係のあり様が多様化する中学生期の発達課題に応じた取組がされている。 とりわけ、いじめを許さないとする生徒の意識向上のための手段を生徒会活動の活性化に求め、生徒の発案による「缶バッチ」を制服等に付けることによる決意表明の活動を定着させている。それにともなういじめ根絶に向けた全校集会の活動、人権作文コンクール、「ポイ捨てＺＥＲＯ運動」などへの発展的な取組もなされている。その実践を緻密な全体計画や年間指導計画の作成、教員間の協力体制の充実などが支えている。